

【更生保護女性会】

令和3年5月1日現在の県内更生保護女性会会員4,498名から150名を抽出して調査を依頼し、145名から回答を得た。

(6)再犯防止のため、犯罪や非行をした人等に対する

「息の長い支援」の必要性

図表⑥のとおり「必要と思う」という回答が117名(80.7%)、「やや必要と思う」という回答が24名(16.6%)であった。

(7)「息の長い支援」にあればいいと思う内容

図表⑦のとおり最も割合が高いのは「就労支援」で72.4%(105名)であり、次いで「居場所作り」が71.0%(103名)、「生活上の困り事の相談」が54.3%(78名)であった。

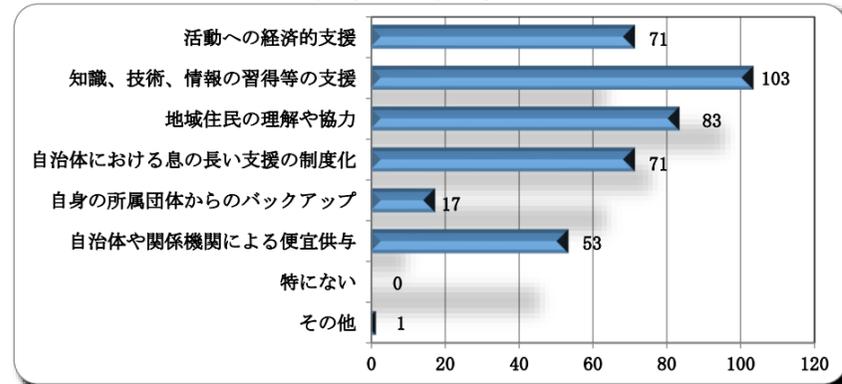
(8)「息の長い支援」に取り組む更生保護

ボランティアへの支援

図表⑧のとおり、最も割合が高いのは「知識、技術、情報の習得等の支援」で71.0%(103名)であり、「地域住民の理解や協力」が57.2%(83名)、「活動への経済的支援」及び「自治体における息の長い支援の制度化」が49.0%(71名)であった。

図表⑧「息の長い支援」に取り組む更生保護

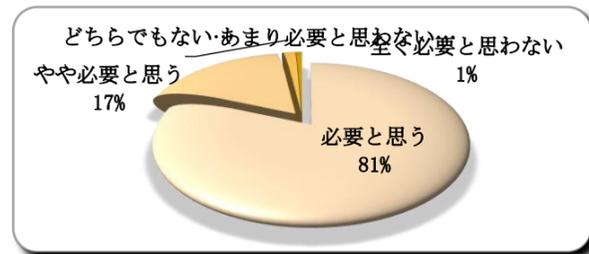
ボランティアへの支援(3つ選択可)



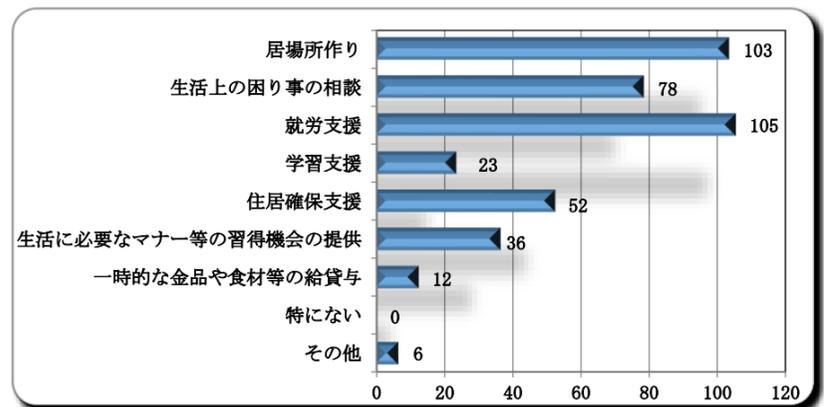
2021年度 更生保護関係者の意識に関するアンケート結果のあらまし

更生保護の課題の可視化や、地域行政との連携をより深める働きかけ等も期待し、更生保護関係者の思いを集約し、更生保護活動のより一層の充実発展に資することを目的とする。

図表⑥「息の長い支援」の必要性(更女)



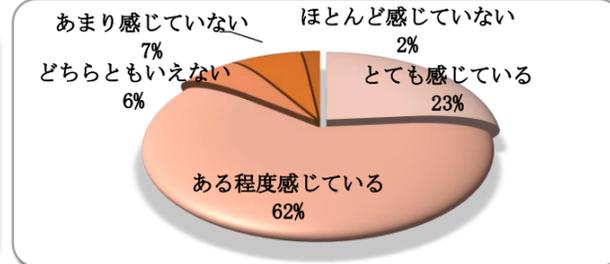
図表⑦「息の長い支援」あればいいと思う内容(3つ選択可)



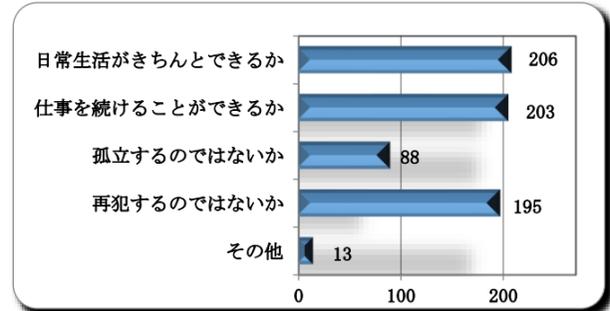
調査へのご協力ありがとうございました。



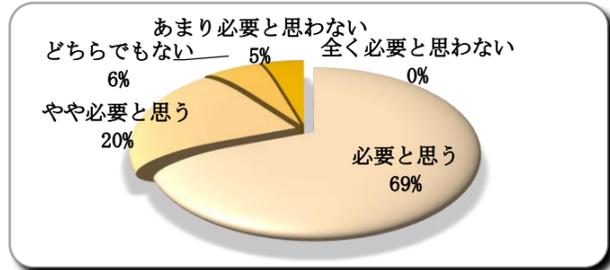
図表① 保護観察が終了する段階で不安を感じるか



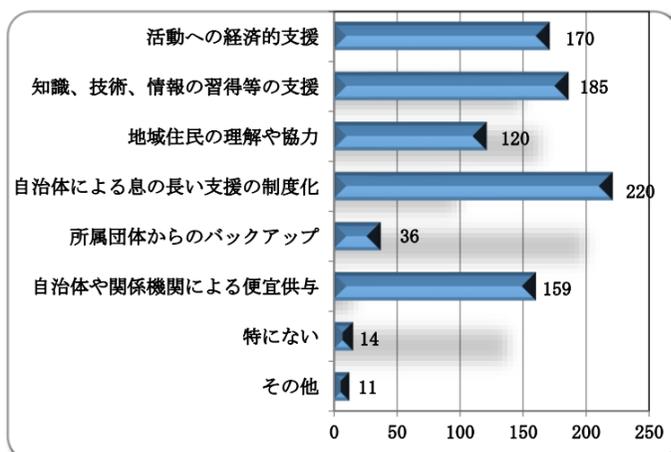
図表② 保護観察が終了する段階で感じる不安の内容



図表③「息の長い支援」の必要性(保護司)



図表⑤「息の長い支援」に取り組む更生保護ボランティアへの支援(3つ選択可)



【保護司会】

令和3年5月1日現在の県内保護司全員(471名)に調査を依頼し、386名から回答を得た。

(1)保護観察が終了する段階で、対象者の今後に不安を感じるか

保護観察の担当経験のある保護司に調査を行ったところ、図表①のとおり「ある程度感じている」という回答が196名(62%)、とても感じているという回答が75名(23%)であった。

(2)保護観察が終了する段階で、どのような点に不安を感じるか

(1)で不安を感じていると回答した271名に対し調査を行ったところ、図表②のとおり、最も割合が高いのは「日常生活がきちんとできるか」で76.1%(206名)であり、次いで「仕事を続けることができるか」が74.9%(203名)、「再犯するのではないか」が72.0%(195名)であった。

(3)再犯防止のため、犯罪や非行をした人等に対する「息の長い支援」

の必要性

図表③のとおり、「必要と思う」という回答が266名(69%)、「やや必要と思う」という回答が77名(20%)であった。

(4)「息の長い支援」にあればいいと思う内容

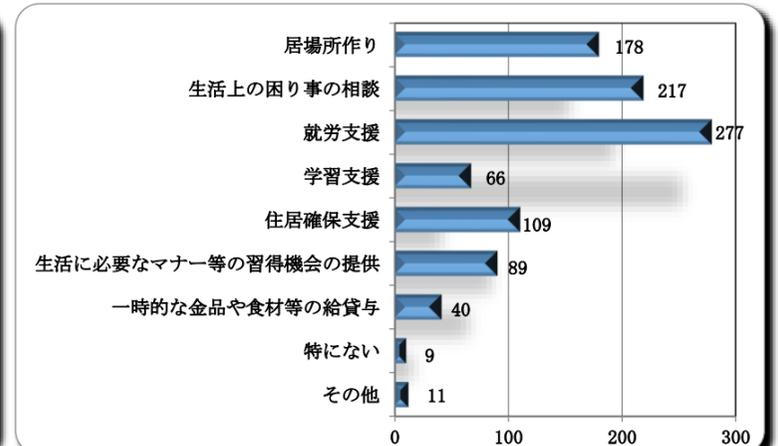
図表④のとおり最も割合が高いのは「就労支援」で71.8%(277名)であり、次いで「生活上の困り事の相談」が56.2%(217名)、「居場所作り」が46.1%(178名)であった。

(5)「息の長い支援」に取り組む更生保護ボランティアへの支援

図表⑤のとおり、最も割合が高いのは「自治体における息の長い支援の制度化」で57.0%(220名)であり、次いで「知識、技術、情報の習得等の支援」が47.9%(185名)、「活動への経済的支援」が44.0%(170名)である。自治体の支援を期待する声は大きいと言える。

「その他」欄では、「関係機関が集まり、サポート内容の共有化を図れる会議の制度化」を望む声とともに「保護司の善意に頼るには限界がある」と、今後の体制整備を強く求める意見も見られた。

図表④「息の長い支援」にあればいいと思う内容(3つ選択可)



保護司へのアンケート結果によると、保護観察の担当経験のある保護司の大半が保護観察が終了する段階で、対象者の今後に何らかの不安を感じており、「息の長い支援」を必要だと思う保護司は全体の89%であった。「息の長い支援」に必要な内容としては、就労支援、生活上の困り事の相談、居場所づくりがもっとも多く選択された。「息の長い支援」に取り組むボランティアへの支援については、「自治体における息の長い支援の制度化」、「知識、技術、情報の習得等の支援」、「活動への経済的支援」を求める声が多かった。

更生保護女性会会員へのアンケート結果によると、「息の長い支援」を必要だと思う会員は全体の97%であった。「息の長い支援」に必要な内容としては、就労支援・居場所作り・生活上の困りごとの相談と保護司と同様の結果であった。「息の長い支援」に取り組むボランティアへの支援については、「知識、技術、情報の習得等の支援」、「地域住民の理解と協力」を求める声が多かった。

滋賀県と法務省の「支え手よし 受け手よし 地域よし 再犯防止“三方よし”」宣言に沿った取組のさらなる充実が期待される。